

福津の子どもたちは 福津が育ててる

今年3月、女兒が親に十分な食事を与えられず死亡した東京都目黒区の事件は連日大きく報道されました。市内でも近年、児童虐待の通報や相談が増えています。尊い命を救うために私たちに何ができるのでしょうか。児童養護施設の施設長の花田悦子さんに聞きました。

昔と今で変わった 子育て環境

「昔前と今とは、子育てをするときの周囲の環境が変わってきました。昔は親子3世代で同居していたり、隣近所との付き合いがあったりしたことが普通だったと思います」と語るのは岡垣町で児童養護施設「報恩母の家」の施設長をしている花田悦子さん。県社会福祉審議会委員も務めています。「今は近くに親戚が住んでいなかったり、地域内での関わりが希薄になっていたりします。保護者が子育てや家族関係で悩んでも、気軽に相談することが難しくなりました」と社会の変化とともに子育てをする環境が変わったと話します。



▲花田悦子さんプロフィール：児童養護施設「報恩母の家」施設長。県社会福祉審議会委員。保護者代表として岡垣町教育委員も務めている

近年相次ぐ 児童虐待に関する報道

児童虐待は殴ったり、蹴ったりする身体的虐待、わいせつな行為をしたりさせたりする性的虐待、食事を与えなかったり同じ服を毎日着せたりするネグレクト、子どもを無視したり子どもの目の前で親がけんかをしたりする心理的虐待に分類されます。市内では平成29年度、市民から直接、または民生委員・児童委員や警察などを通じて、児童虐待に関する相談が30件以上寄せられました。

子どもの大切な時期を 大事にしてほしい

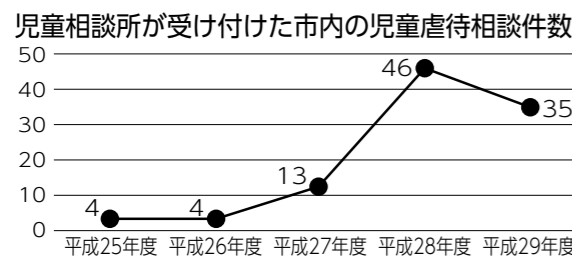
「私たちと一緒に子育てをしていきましょう」。保護者が訪ねてきたとき、花田さんたち職員が言う言葉です。「この施設では虐待など環境上養護を必要とする子どもを預かります。私たちはその子の保護者に事情を

「女の子は何も悪くないのに、親が反省文を書かせるなんて」

「花田さんは「児童虐待は個人責任だけでなく、どんな支援があれば防げたのか」という社会の責任でもあります。地域が子育ての応援者であってほしい」と語ります。「周囲の大人が声を掛けることから、子どもとその家庭につながります。もし子育てで困っている人がいれば、その声掛けが手助けの糸口になるかもしれない」とその大切さを語ります。そして「子育てや家族のことで悩んだとき、相談できる市の窓口や地域の人など、いざというときの支援の選択肢をたくさん持つことが大切です」と話してくれました。

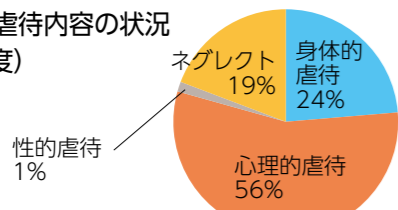
データで見る児童虐待の現状

県児童相談所の統計資料によると、県内では児童虐待に関する相談が近年増加しています。一部を紹介します。



市内では平成28年度と比べて平成29年度は減少しているが、県内全体で見ると平成29年度は過去最高の3000件を超えている

県内の児童虐待内容の状況 (平成29年度)



心理的虐待は50%を超え、昨年度と比較して約1.5倍増加している

地域は子育ての 応援サポーターに

花田さんは「児童虐待は個人責任だけでなく、どんな支援があれば防げたのか」という社会の責任でもあります。地域が子育ての応援者であってほしい」と語ります。「周囲の大人が声を掛けることから、子どもとその家庭につながります。もし子育てで困っている人がいれば、その声掛けが手助けの糸口になるかもしれない」とその大切さを語ります。そして「子育てや家族のことで悩んだとき、相談できる市の窓口や地域の人など、いざというときの支援の選択肢をたくさん持つことが大切です」と話してくれました。



基幹保育所に位置づけられている市立大和保育所の職員が特集の趣旨に賛同し協力してくれました

